



2019年4月2日

各 位

会社名 株式会社 ライトオン
代表者名 代表取締役社長 川崎 純平
(コード：7445 東証第一部)
問合せ先 執行役員管理部長 奥西 隆行
(TEL：029-858-0321)

2019年8月期第2四半期(累計)業績予想と実績値との差異
及び特別損失の計上に関するお知らせ

2019年2月22日に公表しました2019年8月期第2四半期連結累計期間(2018年8月21日～2019年2月20日)の連結業績予想と実績値に差異が発生しましたのでお知らせいたします。また、特別損失の計上につきまして下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年8月期第2四半期(累計)連結業績予想との差異(2018年8月21日～2019年2月20日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A) (2019年2月22日公表)	39,043	△650	△650	△1,800	△65円38銭
実績値(B)	39,043	△419	△336	△1,767	△64円12銭
増減額(B-A)	0	230	313	32	
増減率(%)	0.0	-	-	-	
(ご参考 個別実績) 前期第2四半期実績 (2018年8月期第2四半期)	39,790	938	922	416	15円15銭

2. 差異発生 の理由

前回予想(2019年2月22日公表)におきましては、2月度の販売費及び一般管理費を社内計画で見込んでおりましたが、実績との差異が出た結果、営業損失は419百万円、経常損失は336百万円となりました。最終損益は、通期業績見通しの厳しい店舗につきましては、上半期で収益性の低下が見られた店舗と判断し、減損損失を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,767百万円となりました。

3. 特別損失の計上

前回予想（2019年2月22日公表）におきましては、2017年下期より新規事業として立ち上げたノーティードッグ事業、台湾事業につきまして、当初事業計画から大きく乖離している状況もあり、上半期での収益性の低下を判断し、減損損失 730 百万円計上を見込んでおりましたが、上記2. で述べたとおり、上半期の実績を踏まえ、通期業績見通しの厳しい店舗につきましても、上半期で収益性の低下がみられた店舗と判断し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当第2四半期において、1,121 百万円の減損損失を計上いたしました。

以 上